

第 669 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 2021年1月9日(土) 午後2時00分

新型コロナウイルス感染拡大防止のため東京都地方会講話会は、
Live Zoom 講話会を開催致します。

参加費につきましては無料となります、学術集会への参加単位・
専門医共通講習（医療倫理）の聴講証の発行はございませんので、ご了承ください。

お時間の許す限り、ご参加頂きますようお願い致します。

参加方法につきましてはホームページをご参照ください。

次回以降開催予定日（WEB 開催予定）

2021年 2月 13日（土）

2021年 3月 13日（土）

世話人
プログラム係 工藤 孝広
順天堂大学小児科 03 (3813) 3111
(FAX) 03 (5800) 0216

会 場 係 椎崎 秀彦
日本医科大学小児科 03 (3822) 2131
(FAX) 03 (5685) 1792

事 務 局 03 (5388) 7007
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

第 669 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分、指定発言 5分、追加討論 3分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:30

座長 石井 和嘉子（日本大学小児科）

1) 肝性脳症との鑑別に苦慮した Post Intensive Care Syndrome の 1 例

○高尾 浩之^{1),2)}、中尾 寛²⁾、藤村 友美¹⁾、佐々木亜希子³⁾、田中 恭子⁴⁾、伊藤 玲子²⁾、
窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾ （国立成育医療研究センター教育研修センター）¹⁾、
(同 総合診療部)²⁾、(同 神経内科)³⁾、(同 こころの診療部)⁴⁾

7歳女児。亜急性肝不全のため PICU で血漿交換療法を行った。一般病棟へ転棟後、見当識障害、低活動型せん妄および四肢脱力がみられ、肝性脳症と PICS の鑑別に苦慮した。NH₃、T-Bil 値は低値で、脳波も改善したため PICS と診断した。経時的に認知／遂行機能は回復し、自立歩行も可能となった。集中治療後の意識障害の原因精査において PICS の鑑別は重要である。

2) けいれん群発を契機に Sturge-Weber 症候群 type III と診断に至った乳児例

○落合 悟、占部 良介、友利 伸也、計田 真彦、山本 和奈、景山 秀二、星野 英紀、
三牧 正和 （帝京大学小児科）

生来健康な 8か月男児。右上下肢強直間代けいれんを群発し入院。初期治療に抵抗性を示し、フェノバルビタール静注にて発作は抑制。CT で左頭頂部に高吸収域あり、造影 MRI で同部位の軟膜増強効果あり、ポートワイン母斑を認めなかったが、Sturge-Weber 症候群 (SWS) type III と診断。皮膚所見がない場合も難治性のけいれん群発を呈する場合は SWS も念頭におく必要がある。

3) 発症初期に脳室拡大が目立たなかった急性水頭症の 1 例

○水野 泰昭¹⁾、西 恵美里²⁾、及川 裕之²⁾、富田健太朗²⁾、田口 寛子²⁾、坂口 友理^{2),3)}、
武内 俊樹²⁾、中屋 雅人⁴⁾、三輪 点⁴⁾、高橋 孝雄²⁾
(慶應義塾大学卒後臨床研修センター)¹⁾、(同 小児科)²⁾、
(都立小児総合医療センター神経内科)³⁾、(慶應義塾大学脳神経外科)⁴⁾

3歳女児。脳腫瘍術後、水頭症の既往がある。反復性嘔吐から水頭症再発を疑ったが、頭部 CT では脳室拡大がなかった。3日後、けいれん重複に続き、無呼吸・徐脈・瞳孔不同が出現、再検した CT で脳室拡大を認め、水頭症が判明した。基礎疾患により脳のコンプライアンスが低下した症例では、水頭症が重症化するまで脳室拡大しないことがある。

指定発言 三輪 点（慶應義塾大学脳神経外科）

第 2 グループ 14:35—15:05

座長 林 泰佑（国立成育医療研究センター循環器科）

4) L-アスパラギナーゼによる脳静脈血栓症を発症した T 細胞性急性リンパ性白血病の 10 歳男児例

○岩原可名人、谷口 明徳、丸山起三子、藤原 恵、石橋 武士、富田 理、栗本 朋子、
寺尾梨江子、高田 オト、藤村 純也、清水 俊明 （順天堂大学小児科）

10歳男児。T細胞性急性リンパ性白血病に対しデキサメタゾン (DEX) による先行治療、DEX、L-アスパラギナーゼ (L-Asp) を含む寛解導入療法により寛解に至った。L-Asp を含む強化療法を開始した数日後に左上下肢脱力、全身性けいれんを認め、頭部 MRI 検査で脳静脈血栓症と診断した。稀だが重篤な合併症として注意を要する。

5) 繰り返す失神からカテコラミン誘発多形性心室頻拍と診断した11歳男児例

○山崎 勇大¹⁾、下山 輝義¹⁾、長島 彩子¹⁾、山口 洋平¹⁾、渡邊 友博¹⁾、石井 卓¹⁾、細川 燐¹⁾、土井庄三郎²⁾、森尾 友宏¹⁾

(東京医科歯科大学小児科)¹⁾、(国立病院機構災害医療センター)²⁾

11歳男児。運動時や感情ストレス時の失神を9歳時から計7回繰り返していた。安静心電図は正常であったが、運動負荷試験で二方向性の心室頻拍を認め、カテコラミン誘発多形性心室頻拍(CPVT)と診断した。薬物治療開始後は、失神発作もなく経過している。CPVTは稀な疾患だが非常に予後が悪く、失神の鑑別疾患として重要である。

6) 早期にプロプラノロール投与を開始することで増大を抑制した乳児血管腫の超早産児例

○大田みづほ、奈良昇乃助、直宮 理絵、前田 朋子、羽生 直史、西袋麻里亜、西端みどり、菅波 佑介、河島 尚志 (東京医科大学小児科)

在胎22週の超早産女児。修正30週より右眼瞼下に乳児血管腫が出現し、経過とともに増大した。早産・低出生体重・女児は血管腫発症のリスク因子であり、低酸素ストレスもまた血管腫を増悪させる。開眼困難に伴う視力低下を予防するため、修正35週よりプロプラノロール投与を開始し、有害事象なく血管腫の増悪を抑制したので報告する。

休 憩 15:05—15:10

感染症だより 15:10—15:30 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏 (国立がん研究センター中央病院感染症部)

多屋 韶子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:30—16:30 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 門脇 弘子 (山王病院小児科)

行動科学から見た臨床倫理学

吉川 栄省 (日本医科大学医療心理学教室教授)

日常臨床において、倫理学的な葛藤を感じる場面は少なくない。純粋な倫理学的な問題だけでなく、対処すべき様々な要因が関連することが多く、包括的に(行動科学的に)考えていく必要がある。小児では意思決定能力をどのように考えるべきかなど特有の課題がある。当日は臨床倫理全般の原則を概説しつつ、小児特有の問題に関して考察したい。

休 憩 16:30—16:35

第3グループ 16:35—16:55

座長 堤 範音 (厚生中央病院小児科)

7) 消化管出血を合併し腸管切除にて止血し得た小腸型Crohn病の1例

○飯坂 建太¹⁾、神保 圭佑¹⁾、齋藤 真人¹⁾、吉田 志帆²⁾、細井 賢二¹⁾、稻毛 英介¹⁾、越智 崇徳²⁾、遠藤 周¹⁾、安部 信平¹⁾、鈴木 光幸¹⁾、春名 英典¹⁾、工藤 孝広¹⁾、山高 篤行²⁾、清水 俊明¹⁾

(順天堂大学小児科)¹⁾、(同 小児外科・小児泌尿生殖器外科)²⁾

15歳男子。発症から診断に2年を要し当科に紹介された。治療抵抗性の下血から出血性ショックに至り、開腹手術により回腸の出血部を切除し、回腸ストマを造設した。術後5か月で回腸結腸吻合を行い、良好な経過である。Crohn病による消化管出血はまれだが、生命に及ぶ危険な合併症であるため、今後、多施設での症例集積を行う必要がある。

8) ネフローゼ症候群再発時に深部静脈血栓症を併発した女子例

○田辺雄次郎、板橋 寿和、柳原 剛、伊藤 保彦

(日本医科大学小児科)

13歳女子。再発ネフローゼ症候群の治療中に腎機能障害が進行したため、左内頸静脈にバスキャスルを留置し透析を併用した。経過中、左上肢に浮腫が出現し、左内頸静脈に血栓を認めた。抗凝固療法を行い、経時的に超音波検査で血栓の評価を行った。ネフローゼ症候群の治療に透析を併用する際は、血栓塞栓症に十分に注意する必要がある。

第4グループ 16:55—17:30

座長 舟越 葉那子(都立小児総合医療センター感染症科)

9) 膀胱炎症性偽腫瘍の3歳女児例

○助崎あきら¹⁾、加登 翔太¹⁾、中野 嘉子¹⁾、高杉 奈緒¹⁾、日高 もえ¹⁾、関口 昌央¹⁾、渡辺栄一郎²⁾、鈴木 完²⁾、藤代 準²⁾、樋渡 光輝^{1),3)}、加藤 元博¹⁾

(東京大学小児科)¹⁾、(同 小児外科)²⁾、(同 無菌治療部)³⁾

3歳女児。尿路感染症の精査で膀胱腫瘍を指摘された。横紋筋肉腫を疑い腫瘍生検術を行ったが病理組織学的に悪性所見ではなく、炎症性肉芽組織を認めた。術後3か月で腫瘍は自然消退し、炎症性偽腫瘍と診断した。炎症性偽腫瘍は悪性腫瘍との鑑別が困難であり、他科と連携して治療方針を決定する必要がある。

10) 新生児の早発型GBS感染症の3例

○藤田 哲丸、小林 正久、田辺 行敏、林 至恩、熊澤 健介、稻毛 由佳、山田 早彌、小竹 悠子
(東京慈恵会医科大学小児科)

新生児早発型GBS感染症を3例経験した。3例のうち菌血症が2例、髄膜炎が1例であった。母体スクリーニングにてGBS陽性だったのは1例のみであった。集中治療を要した重症例が2例あり、いずれも頭部MRIにて白質病変が認められ、神経学的予後不良が示唆された。新生児GBS感染症の重症化予防および予後について考察する。

指定発言 生駒 直寛(東京慈恵会医科大学小児科)

11) 運動中の軽微な外傷後に生じた恥骨骨髓炎の1例

○鹿島 健幹¹⁾、多賀谷貴史¹⁾、前川 貴伸²⁾、植松 悟子¹⁾、溝田 満²⁾、石黒 精³⁾
(国立成育医療研究センター救急診療科)¹⁾、(同 総合診療部)²⁾、(同 教育研修センター)³⁾

生来健康な13歳男子。テニス中に大きく開脚してから左鼠径部痛が出現し、翌日発熱し疼痛が持続するため救急外来を受診した。股関節X線と超音波検査で異常所見を認めず帰宅したが、受診時の血液培養が陽性のため入院精査を行い、MRIで左恥骨骨髓炎と診断した。軽微な外傷を契機に骨髓炎を発症することに留意すべきである。

【運営委員会だより】

1. 12月の運営委員会はメール審議で行った。今回の講話会もLive Zoomのみの開催となり、最高値95名くらいまで達した。2月の幹事会、3月の総会は書面で行うことが了承された。
2. 第669回講話会のプログラム編成について承認された。
3. 第669・670・671回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が承認された。
4. 子どもの健康週間パンフレットについて2020年のパンフレットの在庫数が少なくなっているので、利用の際はHPからダウンロードするよう依頼があった。
5. 名誉会員に関して、推薦がなかったことが報告された。

【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。(共同演者から指定発言は頂けません)
- ・ 演題の締切は次のようになります。
- ・ 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承ください。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先になることがありますのでご了承ください。

その場合、事務局よりご連絡します。

【座長・演者の先生方へのお願い】

- ・ 講話会当日、ログインした際に、チャット機能を用いて事務局および進行係へログインした事をお知らせ下さい。

【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願い致します。(原稿はワード入力でe-mailにて事務局へお送り下さい。)
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後(または適切な時期)にTake Home Message(この発表から学ぶこと)を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所(プログラム送付先)等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。お届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

【事務局よりご連絡】

- ・ 1月9日の東京都地方会講話会はLive Zoom講話会として開催させて頂きます。来場での開催はございませんので、ご注意ください。
参加費は無料となります。学術集会の参加単位(iv-B貼付用)および専門医共通講習(医療倫理)の聴講証(ii貼付用)の発行はございませんのでご了承ください。
ご参加頂くには学会ホームページの講話会プログラム(会員専用)にアクセスして頂きますようお願い致します。アクセスするには全会員共通となります。ユーザー名: tokyo と PWD:jps-tが必要となります。ホームページの『開催のおしらせ』に参加URLを掲載致します。
- ・ 子どもの健康週間パンフレットの2017年版の在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡ください。

Presentationについて

発表者のPCにてZoomの画面共有で発表して頂きます。スムースな会の進行のため、なるべく高速で安定しているネット回線環境（可能であれば有線LAN）と、安定している最新版Zoomのご用意をお願い致します。発表当日以前に事務局で接続テストの時間を設けますので、必ず接続確認と動作確認を行うよう、よろしくお願い致します。接続テストの具体的な日程は座長・発表者に事務局よりご連絡致します。また、発表当日は動作が不安定にならないように、バックグラウンドで不要なソフトを動かさないようご協力よろしくお願い致します。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ①一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ②動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承ください。

日本小児医事出版社 書籍のご案内



最新感染症ガイド R-Book 2018-2021

編集 米国小児科学会

監修 岡部 信彦 川崎市健康安全研究所

最新感染症ガイドR-Book 2018-2021では予防接種、抗菌薬、感染症の各論そして各種ガイドラインなどの各項目の情報を更新。それらの資料となるウェブサイトの掲載も充実しています。各感染症では最新遺伝子検査が可能となり、その多くが追加されています。米国小児科学会(AAP)米国疾病管理予防センター(CDC)の予防接種諮詢委員会(ACIP)およびその他専門機関からのエビデンスに基づいた情報はすべて最新です。

**菊版／1208頁／ISBN9784889242669
2019年3月発行／価格19,000円+税**



日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿5-25-11 2F
TEL: 03-5388-5195 / FAX: 03-5388-5193